

クロマグロの資源管理について

1 太平洋クロマグロの資源状況と2015年以降の漁獲規制方針

(1) I S C (北大西洋マグロ類国際科学委員会) の資源評価 (平成26年3月)

- ① 2012年の親魚量 (成熟個体の総資源量) は、26,324 tで、過去最低水準付近まで低下。(※過去最低水準は1984年の約1.9万t)
- ② 2012年の加入 (個体が成長し漁業の対象に加わること) は、約712万尾で、過去 (61年間) 8番目の低水準。直近5年間の平均値も、過去の平均以下。
- ③ 資源評価に基づく将来予測では、低加入が継続する場合、現行の規制措置 (未成魚の漁獲量を2002年～2004年水準より最低15%削減等) では、親魚資源の回復は期待できず、未成魚を50%削減した場合のみ親魚資源が回復するとの予測。

(2) I S Cからの管理提言

- ① 漁獲死亡率及び未成魚漁獲量の大幅な削減。
- ② 未成魚の加入動向を迅速に把握するため、加入のモニタリングを強化。

2 水産庁の方針

水産庁は太平洋クロマグロの親魚資源を10年以内に歴史的中間値 (約43,000トン) まで回復させるべく、国内的・国際的な対応を進める方針。

(1) 国内対策

- ① 2015年から未成魚漁獲量の2002～2004年平均レベル (漁獲実績) からの半減に取り組む。
- ② 漁業種類別の削減方法

まき網	漁獲量上限規制を強化
曳き網、定置網等の沿岸漁業	本年4月導入の承認制をベースに漁獲量モニタリングのシステムを構築し、漁獲を抑制等

- ③ 具体的な取組手法等は、広域漁業調整委員会等において検討。
- ④ 削減幅は、原則3年ごとに行われる資源評価の結果を踏まえ、適宜見直し。

(2) 国際対策

I A T T C・W C P F Cにおいて適切な保存管理措置 (未成魚漁獲量の半減等) が採択されるよう、我が国がリーダーシップを一層発揮。

(参考) 境漁港のクロマグロ水揚量 (鳥取県水産試験場調べ) ※単位: トン

年	2009	2010	2011	2012	2013	単価(2013)
ヨコワ (未成魚、30kg未満)	696	63	686	77	192	628円/kg
クロマグロ (成魚、30kg以上)	877	615	1,598	583	1,267	1,065円/kg
計	1,573	678(696)	2,284	660	1,460	-

※2010年は約18t分について分類不能のため、計上していない。(総計は()内の数値)

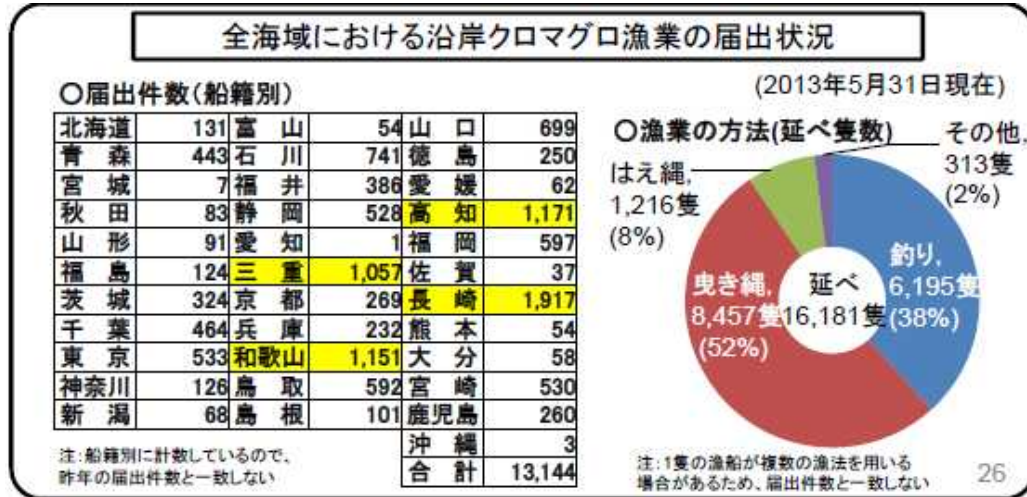
沿岸くろまぐろ漁業について

1 平成25年沿岸くろまぐろ漁業（届出制）の漁獲状況について

鳥取県分 592隻届出（全国13,144隻）

平成25年漁獲実績 19隻 合計418.5kg

（田後132.5kg、網代26kg、賀露260kg）



2 平成26年沿岸くろまぐろ漁業の承認制について

(1) 承認制の概要（日本海・九州西広域漁業調整委員会指示第37号）

①承認対象期間

平成26年4月1日から平成26年12月31日まで

②承認対象者

「沿岸くろまぐろ漁業」（動力漁船を用いて、日本海・九州西海域でくろまぐろをとることを目的とする漁業）を営もうとする者。

ただし、漁業権に基づく漁業（定置漁業・共同漁業）、大臣許可・届出漁業等は承認申請不要。

③その他

・隻数制限の実施：今回承認された漁船隻数を上限とした隻数枠が設定される。

・申請書類、漁獲成績報告書は届出制の時とほぼ同じもの。

(2) 承認者数

鳥取県分については、647名（651隻）が承認を受けた。

漁協内訳	承認者数
田後漁協	68
鳥取県漁協	507
中部漁協	50
赤碕町漁協	22
県計	647

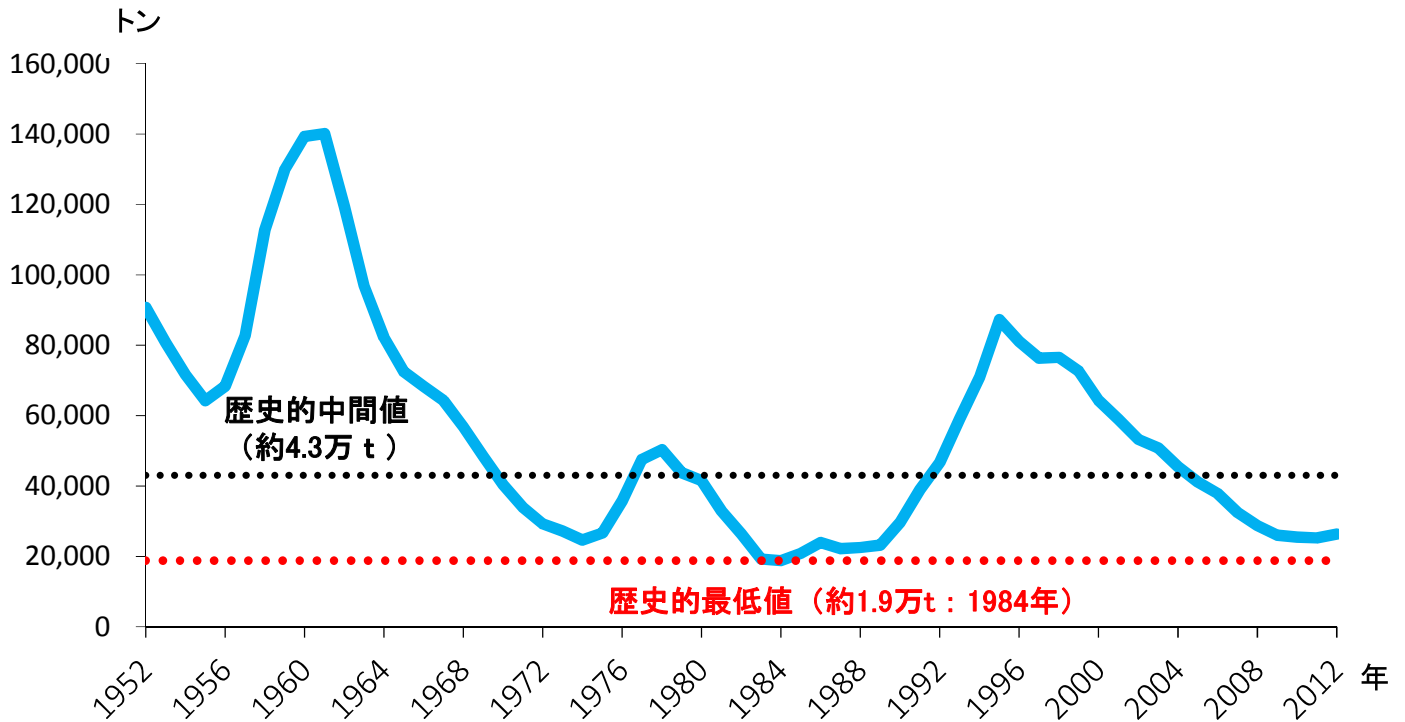
広域漁業調整委員会資料（抜粋）

太平洋クロマグロの資源状況と 管理の方向性について

2014年3月
水産庁

親魚資源量(SSB)の動向

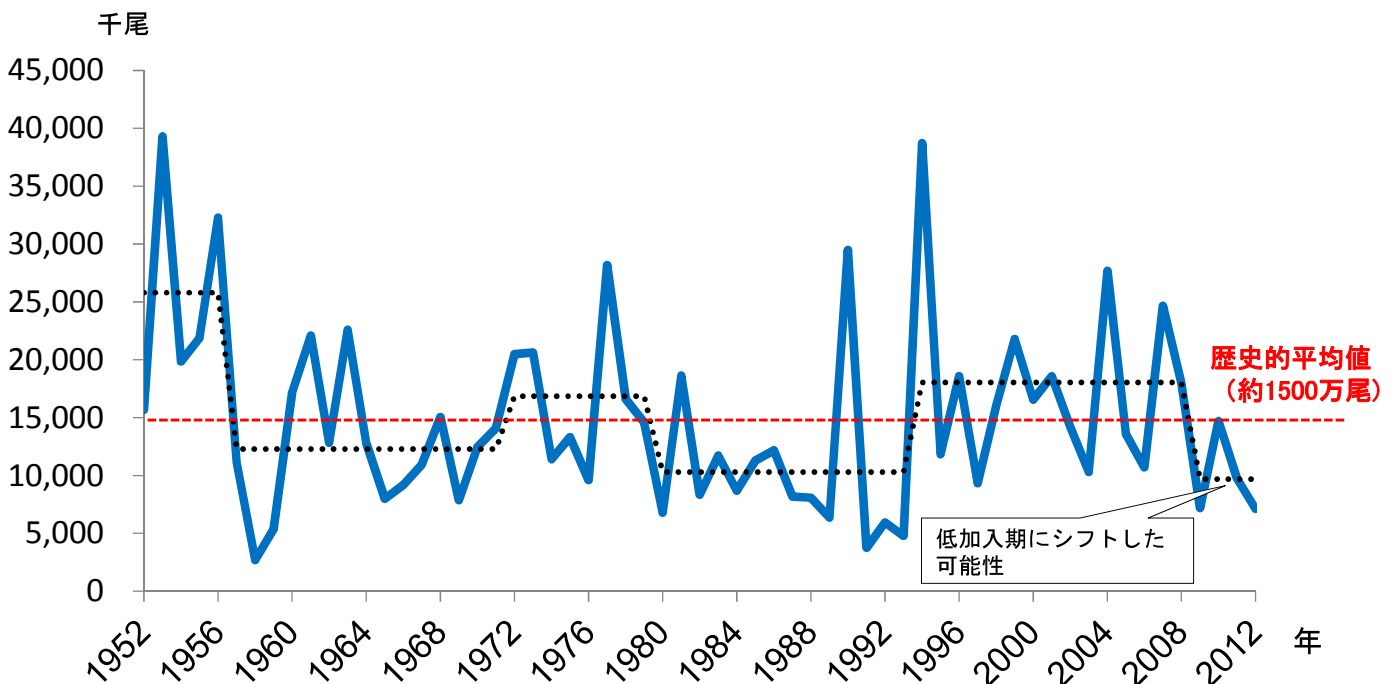
2012年の親魚資源量は26,324tで、歴史的最低水準(約19,000t)付近



2

未成魚の加入(発生)状況

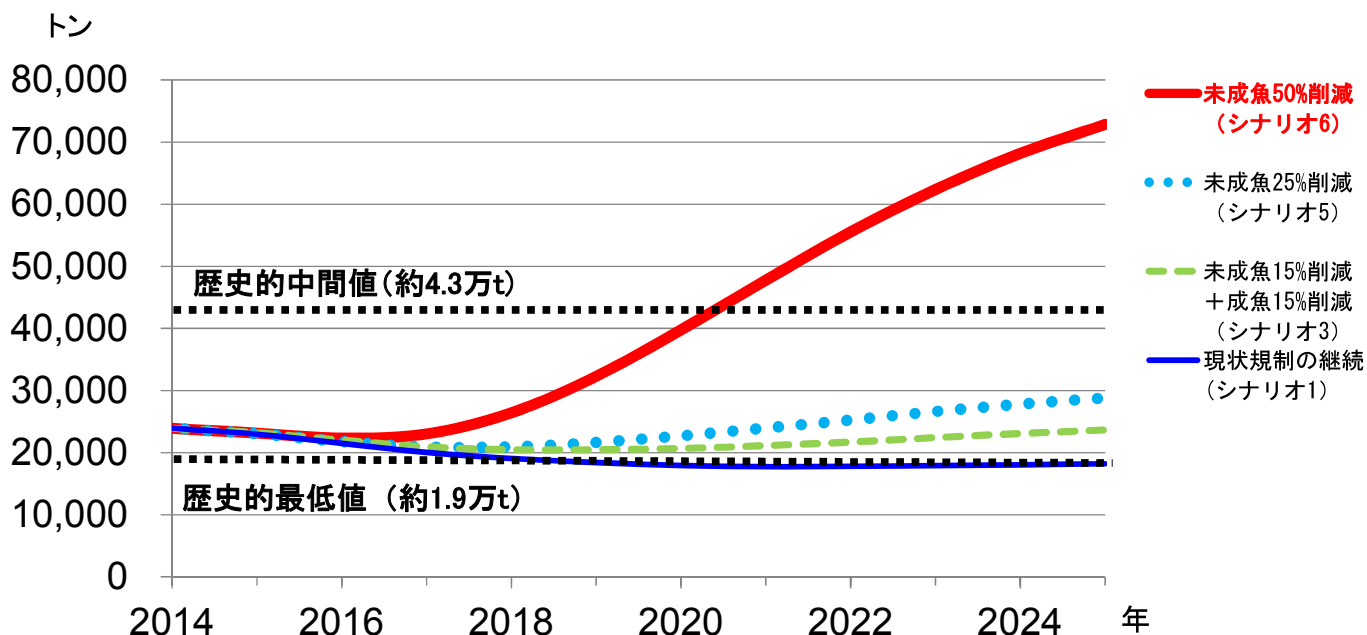
2012年の加入は、約712万尾で、過去(61年間)8番目の低水準。直近5年間の平均値も、過去平均以下。



3

親魚資源量の将来予測 ②

未成魚の50%削減(シナリオ6)以外は、10年以内に歴史的中間値まで回復せず



- ・上記のグラフは、シナリオごとの6千回のシミュレーション結果の中央値であり、計算結果の半数はこれよりも低い。
- ・加入レベルは、当初10年間は80年代の低レベル、その後は過去平均レベルを想定。
- ・2014年から10年以内（2024年まで）に歴史的中間値を達成する確率は、未成魚25%削減の場合16%、未成魚50%削減の場合85%。

5

親魚資源量の将来予測 ③

ポイント

1. 低加入が継続する場合、現行のWCPFC・IATTCの規制措置(シナリオ1)では、親魚資源の回復は期待できない。
2. 低加入が継続する場合、**未成魚を50%削減(シナリオ6)**した場合のみ親魚資源が回復。
3. 上記2の場合、親魚資源は、10年以内に85%の確率で歴史的中間値(約43,000トン)まで回復する見込み。

6

2. 日本としての資源管理の方向性①

「太平洋クロマグロの管理強化についての対応」(平成22年5月11日農林水産省)及び現在の資源状況を踏まえ、

- 太平洋クロマグロの親魚資源を10年以内に歴史的中間値まで回復させるべく、
- 当面の間、未成魚漁獲量の2002-2004年平均レベル(漁獲実績)からの半減に向けて、国際的・国内的な対応を進めることとしたい。

【参考】「太平洋クロマグロの管理強化についての対応」(平成22年5月11日農林水産省)(抄)

2. 今後の対応

(1) 基本的な対応

未成魚の漁獲を抑制・削減し、大きく育ててから漁獲することにより、太平洋クロマグロの資源管理を推進します。また、資源変動の大きい本種の親魚資源量が中長期的(5~10年)に適切な変動の範囲内に維持され、これまでの最低水準を下回らないよう管理していきます。

8

2. 日本としての資源管理の方向性②

国際対策

- IATTC・WCPFCにおいて適切な保存管理措置(未成魚漁獲量の半減等)が採択されるよう、我が国がリーダーシップを一層発揮。

国内対策

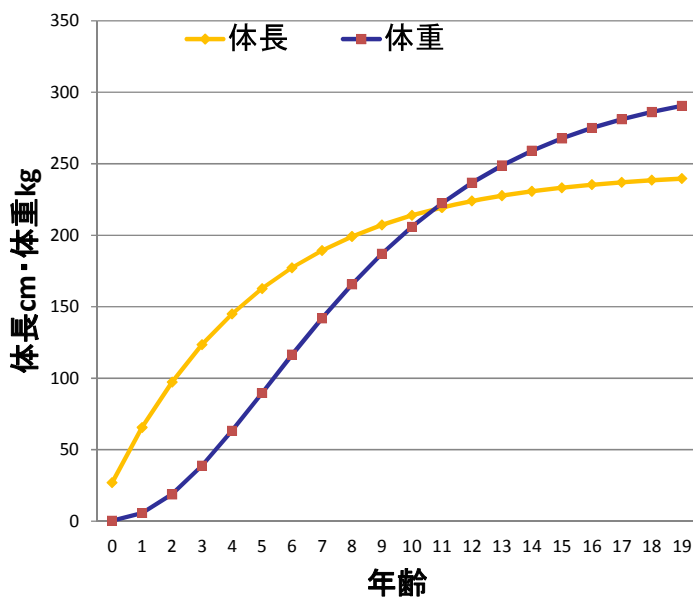
- 2015年から、未成魚漁獲量の2002-2004年平均レベル(漁獲実績)からの半減に取り組む。
- 具体的な取組手法等は、広域漁業調整委員会等において検討。
- **漁業種類別の削減方法**
 - ① **まき網： 漁獲量上限規制を強化**
 - ② **曳き縄、定置網等の沿岸漁業：**
本年4月導入の承認制をベースに漁獲量モニタリングのシステムを構築し、漁獲を抑制等
- 削減幅は、原則3年ごとに行われる資源評価の結果を踏まえ、適宜見直し。

9

(参考資料)

太平洋クロマグロの体長・体重

- 3歳で一部が成熟開始、5歳で全てが成熟
- 体長1m程度では未成魚



- 0歳：30cm 0.4kg
 - 1歳：66cm 5.7kg
 - 2歳：97cm 19kg
 - 3歳：124cm 39kg(全体の20%が成熟)
 - 4歳：145cm 63kg(全体の50%が成熟)
 - 5歳：163cm 90kg(全体の100%が成熟)
- (10月時点※)

※ 南西諸島での産卵時期は5～7月

太平洋クロマグロの国別漁獲状況

トン

年	日本		韓国		台湾		メキシコ		米国		その他		合計		総計
	未成魚	成魚	未成魚	成魚	未成魚	成魚	未成魚	成魚	未成魚	成魚	未成魚	成魚	未成魚	成魚	
1994	6,165	9,021	50			559	51	14	822	232		2	7,088	9,828	16,916
1995	20,740	6,350	821			337	10	1	918	46		2	22,490	6,736	29,226
1996	9,480	4,527	102			956	3,482	218	4,470	279		4	17,534	5,985	23,519
1997	13,610	5,242	1,054			1,814	287	81	1,984	546		14	16,935	7,697	24,632
1998	7,049	4,142	188			1,910	1	0	1,923	542		20	9,161	6,614	15,775
1999	10,624	12,004	256			3,089	2,239	165	722	87		21	13,841	15,366	29,207
2000	15,445	9,132	2,401			2,782	2,902	216	1,024	72		21	21,772	12,223	33,995
2001	10,251	3,960	1,186			1,843	767	97	606	89		50	12,811	6,039	18,850
2002	9,309	4,877	932			1,527	1,366	344	555	162		66	12,162	6,976	19,138
2003	7,951	2,455	2,601			1,884	2,635	619	343	92		60	13,529	5,110	18,639
2004	6,785	7,314	773			1,717	6,375	2,519	40	20		77	13,973	11,648	25,620
2005	14,796	6,872	1,318			1,370	3,778	765	237	51		27	20,129	9,084	29,213
2006	9,828	4,350	1,012			1,150	8,791	1,136	89	9		24	19,719	6,670	26,389
2007	8,515	6,191	1,281			1,411	3,227	920	45	13		24	13,068	8,559	21,626
2008	11,879	5,836	1,743	123		981	3,706	701	75	19		24	17,402	7,685	25,087
2009	9,701	4,896	901	34		888	2,709	310	525	66		24	13,837	6,219	20,055
2010	5,500	2,787	1,128	68		409	5,731	2,015	95	28		24	12,454	5,331	17,785
2011	9,127	4,659	670	1		316	1,866	865	414	205		24	12,078	6,069	18,147
2012	3,815	2,468	1,406	16		213	5,280	1,388	516	144		24	11,017	4,253	15,270
02-04年の平均	8,015	4,882	1,435			1,709	3,458	1,161	312	91		67	13,221	7,911	21,133
02-04年の85% (▲15%)	6,813	4,150	1,220			1,453	2,940	987	266	78		57	11,238	6,725	17,963
02-04年の50% (▲50%)	4,007	2,441	718			855	1,729	580	156	46		34	6,611	3,956	10,566

※韓国及び台湾の2002年以降のデータは、それぞれのISCへの提出データ。韓国及び台湾の2001年以前のデータ、並びに日本、メキシコ、米国及びその他については、国際水産資源研究所による推定値。

※日本の未成魚・成魚の区分については、体重の場合、30kg未満=未成魚、30kg以上=成魚と区分、銘柄の場合、“ヨコワ”と“メジ”は未成魚で、“マグロ”や“シビ”は成魚と区分。

13

我が国の成魚・未成魚(30kg未満)別漁獲状況

トン

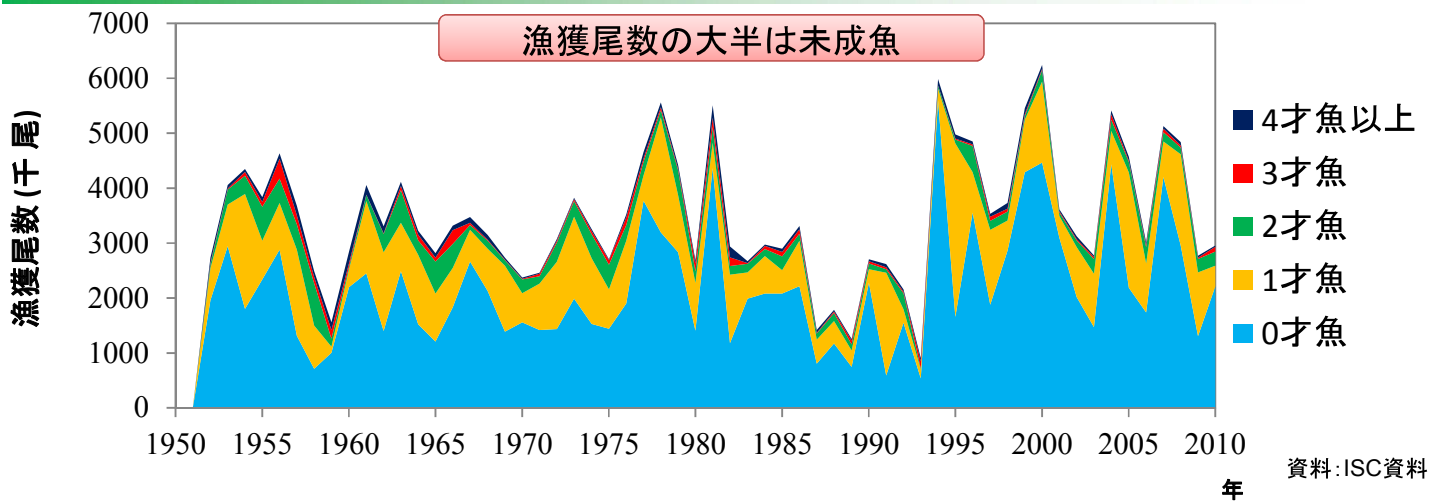
年	大型魚を漁獲するまき網						小型魚を漁獲するまき網		まき網全体		はえ縄(遠洋・近海)				はえ縄全体		曳き縄・手釣り		竿釣り		定置網		その他		漁業種類合計		総計		
	太平洋		日本海		未成魚	成魚	未成魚	成魚	未成魚	成魚	赤道以北		赤道以南		未成魚	成魚	未成魚	成魚	未成魚	成魚	未成魚	成魚	未成魚	成魚	未成魚	成魚		未成魚	成魚
	未成魚	成魚	未成魚	成魚							未成魚	成魚	未成魚	成魚															
	未成魚	成魚	未成魚	成魚	未成魚	成魚	未成魚	成魚	未成魚	成魚	未成魚	成魚	未成魚	成魚	未成魚	成魚	未成魚	成魚	未成魚	成魚	未成魚	成魚	未成魚	成魚	未成魚	成魚		未成魚	成魚
1994	126	6,525	694	786	912	7,219			238		20		968	1,226	4,111			162		637	522	344	54	6,165	9,021		15,186		
1995	36	4,801	496	13,575	13,611	5,298			107		10		571	688	4,778			270		1,594	266	487	99	20,740	6,350		27,091		
1996	2,489	2,601	450	2,104	4,593	3,051			123		9		778	909	3,640			94		898	251	255	315	9,480	4,527		14,008		
1997	2,823	2,606	708	7,015	9,838	3,314			142		12		1,158	1,312	2,740			34		666	138	333	478	13,610	5,242		18,852		
1998	719	1,670	326	2,676	3,395	1,995			169		10		1,086	1,266	2,876			85		403	471	291	409	7,049	4,142		11,191		
1999	1,293	9,747	579	4,554	5,847	10,326			127		17		1,030	1,174	3,440			35		902	195	399	309	10,624	12,004		22,628		
2000	900	6,546	747	8,293	9,193	7,293			121		7		832	959	5,217			102		701	424	233	456	15,445	9,132		24,577		
2001	586	2,313	239	4,481	5,068	2,552			63		6		728	797	3,466			180		1,241	125	297	486	10,251	3,960		14,212		
2002	193	3,131	599	4,981	5,174	3,729			47		5		794	846	2,607			99		1,008	92	422	210	9,309	4,877		14,186		
2003	183	203	571	4,812	4,995	774			85		12		1,152	1,249	2,060			44		648	191	205	241	7,951	2,455		10,407		
2004	143	2,692	2,100	3,323	3,465	4,792			231		9		1,616	1,855	2,445			132		680	235	82	432	6,785	7,314		14,099		
2005	155	185	3,694	8,783	8,938	3,879			107		14		1,818	1,939	3,633			549		1,509	673	167	381	14,796	6,872		21,668		
2006	1,352	280	2,012	5,236	6,588	2,292			63		11		1,058	1,131	1,860			108		991	430	280	498	9,828	4,350		14,178		
2007	124	718	2,123	3,875	3,998	2,841			83		8		2,004	2,096	2,823			236		1,142	361	316	893	8,515	6,191		14,706		
2008	1	0	3,028	7,192	7,193	3,028			19		8		1,476	1,503	2,377			64		1,739	619	506	686	11,879	5,836		17,715		
2009	33	795	1,299	5,950	5,983	2,094			8		7		1,304	1,319	2,003			50		1,274	962	392	521	9,701	4,896		14,598		
2010	49	21	1,052	2,620	2,669	1,073			5		6		903	915	1,583			83		842	205	324	595	5,500	2,787		8,287		
2011	16	305	1,906	6,113	6,129	2,211			9		11		933	954	1,820			63		905	1,052	211	442	9,127	4,659		13,786		
2012	3	198	841	1,419	1,423	1,039							594	594	570			113		1,273	492	437	343	3,815	2,468		6,283		
02-04年の平均	173	2,008	1,090	4,372	4,545	3,098			121		9		1,187	1,317	2,371			92		772	173	236	294	8,015	4,882		12,897		

※国際水産資源研究所による推定値。

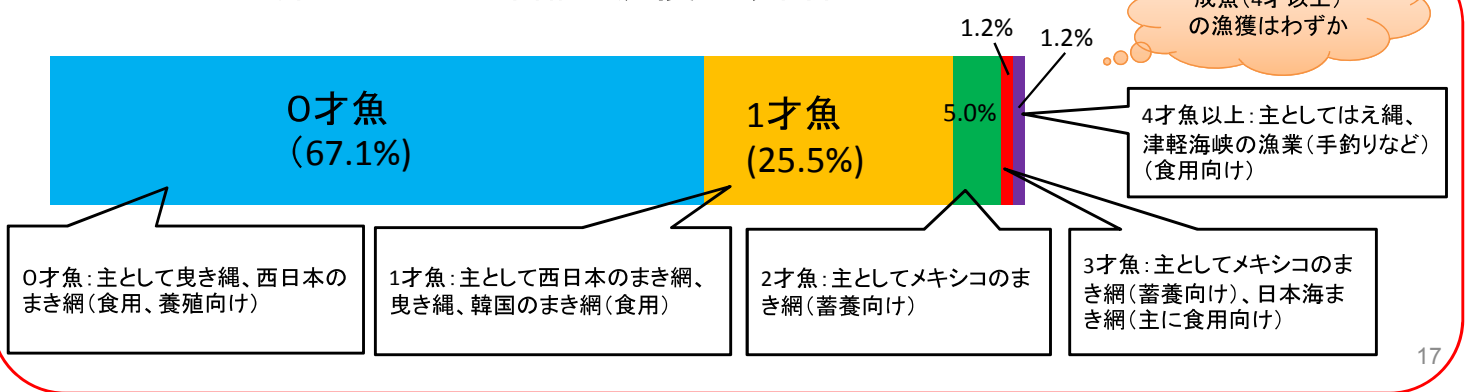
※日本の未成魚・成魚の区分については、体重の場合、30kg未満=未成魚、30kg以上=成魚と区分、銘柄の場合、“ヨコワ”と“メジ”は未成魚で、“マグロ”や“シビ”は成魚と区分。

14

太平洋クロマグロの年齢別漁獲状況

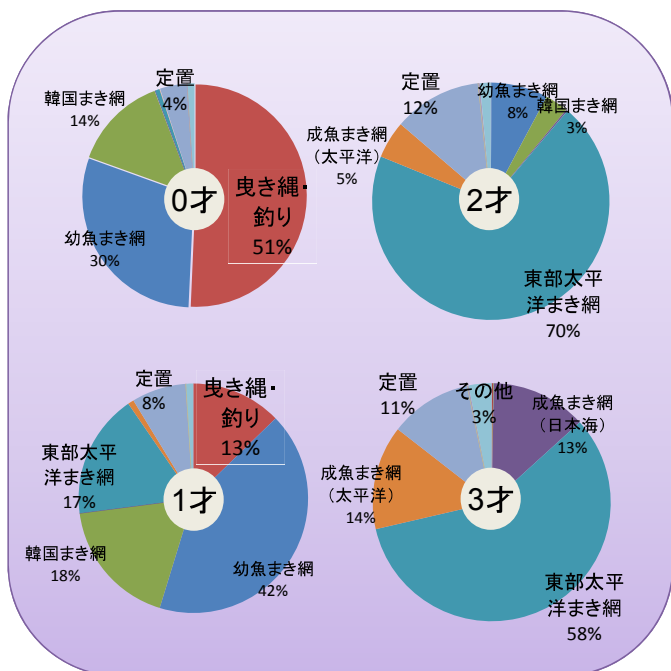


太平洋クロマグロ年齢別漁獲尾数割合 (2001-2010年の平均)



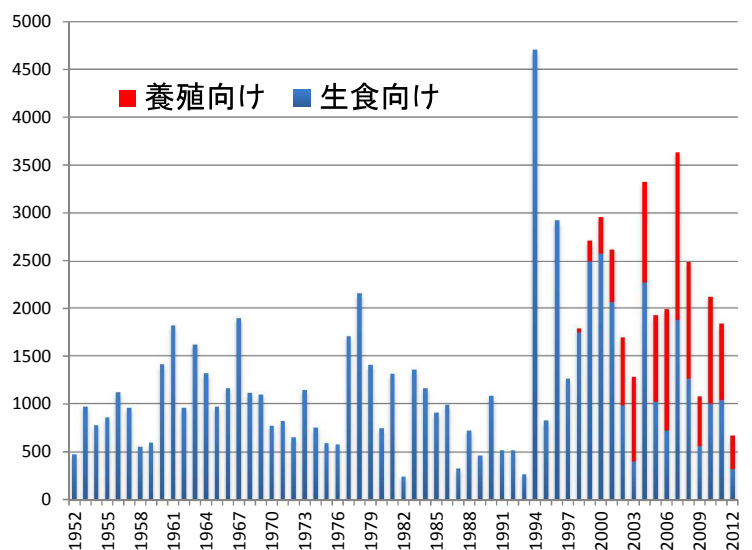
太平洋クロマグロの未成魚の漁獲状況(詳細)

未成魚の年齢別漁獲尾数割合 (2000~2010年の平均)



曳き縄による漁獲尾数の推移

単位: 1000尾

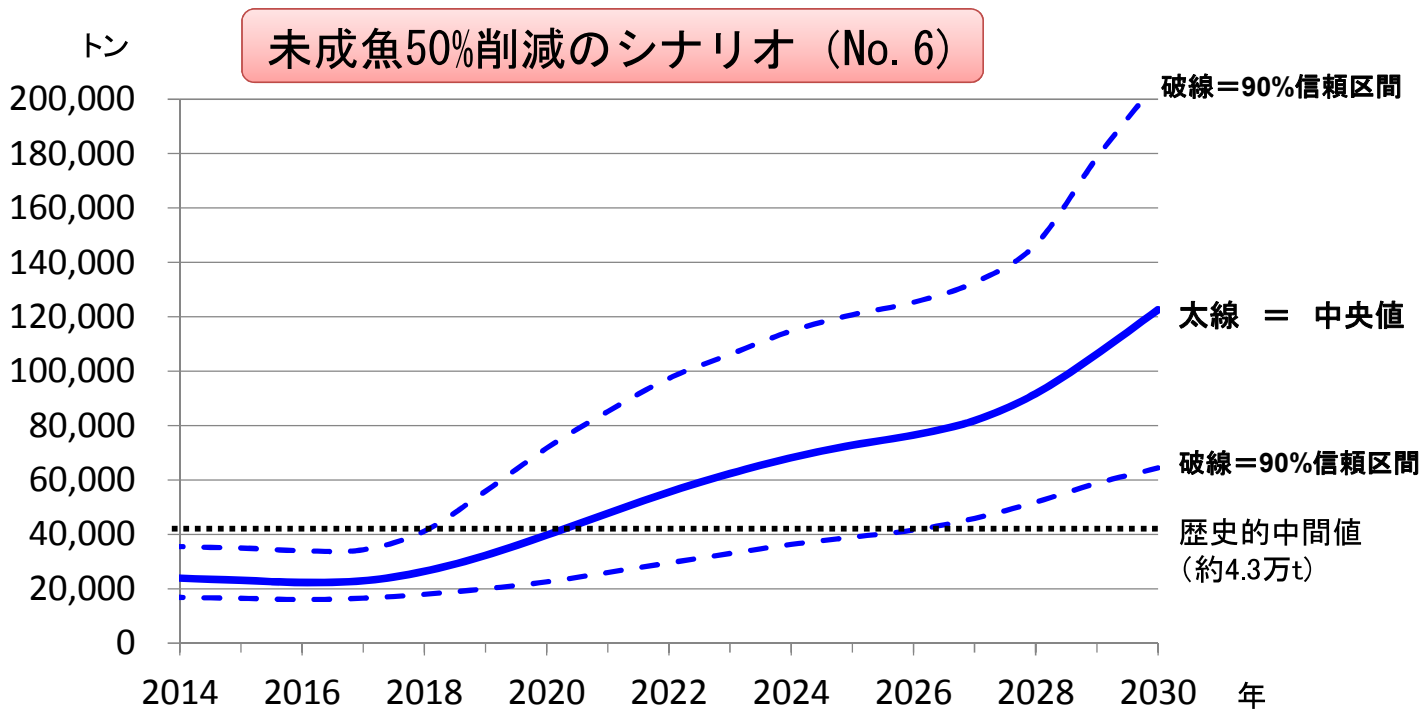


注1: 養殖向けは、1998年以降のデータのみ

注2: 2011年及び2012年のデータは暫定値

注3: 養殖向け漁獲尾数には、漁獲され、活け込み前に死亡したと推定される尾数を含む。

親魚資源量の将来予測（参考）



・ 加入レベルは、当初10年間は80年代の低レベル、その後は過去平均レベルを想定。

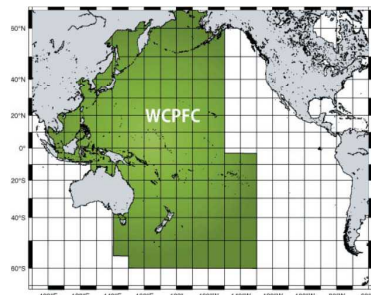
今後の国際交渉スケジュール

		2014年	2015年	2016年
WCPFC (太平洋クロマグロ)		<ul style="list-style-type: none"> ・2月末 ISCによる資源評価更新 ・7月 ISC ・9月 北小委員会 保存管理措置見直し案議論 ・12月 年次会合 保存管理措置を採択 	<ul style="list-style-type: none"> ・ISC ・北小委員会 ・年次会合 	<ul style="list-style-type: none"> ・ISCによる資源評価更新 ・北小委員会 ・年次会合
参考	IATTC (東部太平洋)	<ul style="list-style-type: none"> ・5月 科学委員会 ・7月 年次会合 新たな漁獲枠設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・科学委員会 ・年次会合 	<ul style="list-style-type: none"> ・科学委員会 ・年次会合
	ICCAT (大西洋クロマグロ)	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな漁獲枠設定 		
	CITES (絶滅危惧種)		<ul style="list-style-type: none"> ・9月頃 提案締切 	<ul style="list-style-type: none"> 第17回締約国会合 (南アフリカ)

現在のWCPFC及びIATTCの管理措置

■2013年のWCPFC会合で採択された保存管理措置の概要 (2014年、2015年の措置)

- 各国は、クロマグロの漁獲努力量(操業隻数・日数等)を、沿岸の零細漁業を含め、2002～2004年水準よりも削減
- 各国(韓国を含む)は、上記の実施に際し、未成魚(0-3才)の漁獲量を2002～2004年水準よりも最低15%削減
- 各国は、加入のモニタリングを強化・加入が悪い場合の緊急ルールを2014年中の作成
- 2014年2月の資源評価結果を踏まえ、2015年以降に未成魚漁獲の更なる削減



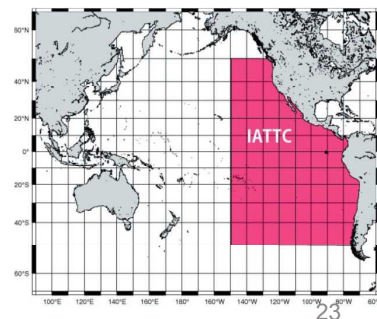
■2013年のIATTC会合で採択された保存管理措置の概要 (2014年の措置)

- 2014年の漁獲枠5,000トン(我が国漁船による漁獲実績なし)

※現行の保存管理措置

2012年、2013年の2年間の合計で漁獲枠10,000トン ※2012年の漁獲実績6,600トン
【メキシコの平均漁獲実績】2002-2004年:4,600トン (2013年の残枠3,400トン)

※2015年以降の措置については、2013年のWCPFC年次会合で採択された措置、最新の資源状況等を考慮し、2014年に検討される予定



(2) 沖合漁業の管理強化(大中型まき網漁業)

WCPFCの保存管理措置に基づいて実施しているもの

○未成魚(30kg未満)

九州西・日本海及び太平洋における大中型まき網漁業による年間の総漁獲量を以下の数量未満に制限。

2011～2013年 : **5,000トン未満** (05-09年比約22%削減)
2014年 : **4,250トン未満** (05-09年比約34%削減)

【平均漁獲量】

2002-04年平均 : 5,000トン
2005-09年平均 : 6,435トン

【漁獲実績】

2011年実績 : 4,254トン
2012年実績 : 3,234トン
2013年実績 : 1,649トン

WCPFCの保存管理措置とは別に追加的に実施しているもの

○成魚(30kg以上)

日本海における大中型まき網漁業による産卵期(6～8月)の総漁獲量を**2,000トン未満**に制限。
(05-09年比約13%削減)

【平均漁獲量】

2002-04年平均 : 1,100トン
2005-09年平均 : 2,300トン

【漁獲実績】

2011年実績 : 1,796トン
2012年実績 : 702トン
2013年実績 : 1,560トン

(3) 沿岸漁業の管理

広域漁業調整委員会の海域区分

日本海・九州西(2011年4月から実施)

瀬戸内海(2012年4月から実施)

太平洋(2012年4月から実施)

曳き縄漁業等の自由漁業の届出制移行、漁獲実績報告の義務化
(2011年4月から順次実施)

- 動力漁船を使用してクロマグロをとることを目的とする漁業を営む者を対象に届出制移行、漁獲実績(水揚げ市場、漁業の方法、操業海域、漁獲量(鮮魚・養殖用種苗の別))の報告を義務付け
【法的根拠: 漁業法(広域漁業調整委員会指示)】

定置漁業の免許数抑制
(2010年1月から実施)

- クロマグロを主たる漁獲物とする定置漁業の免許数の抑制等
【法的根拠: 漁業法】

農林水産大臣から各都道府県知事に指示

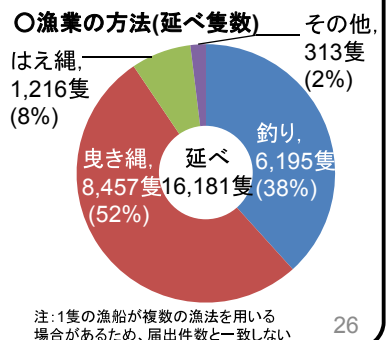
全海域における沿岸クロマグロ漁業の届出状況

〇届出件数(船籍別)

北海道	131	富山	54	山口	699
青森	443	石川	741	徳島	250
宮城	7	福井	386	愛媛	62
秋田	83	静岡	528	高知	1,171
山形	91	愛知	1	福岡	597
福島	124	三重	1,057	佐賀	37
茨城	324	京都	269	長崎	1,917
千葉	464	兵庫	232	熊本	54
東京	533	和歌山	1,151	大分	58
神奈川	126	鳥取	592	宮崎	530
新潟	68	島根	101	鹿児島	260
				沖縄	3
				合計	13,144

注: 船籍別に計数しているため、
昨年の届出件数と一致しない

(2013年5月31日現在)



(4) 沿岸漁業の管理強化

現在

日本海・九州西広域漁業調整委員会

自由漁業(曳き縄漁業等)に届出制を導入
漁獲実績報告の義務化
(平成23年4月から順次実施)

沿岸クロマグロ漁業
の実態把握(漁獲量、
漁法、水揚げ場所、操業
海域、トン数階層等)

広域漁業調整委員会の海域区分

太平洋広域漁業調整委員会

瀬戸内海広域漁業調整委員会

平成26年4月1日以降

届出制から承認制へ移行
広域漁業調整委員会の指示に
基づき隻数制限を導入

沿岸クロマグロ漁業
の管理体制の強化

対象漁業、提出書類及び漁獲実績報告書は基本的に届出制と同様【法的根拠: 漁業法(広域漁業調整委員会指示)】